

まよひか

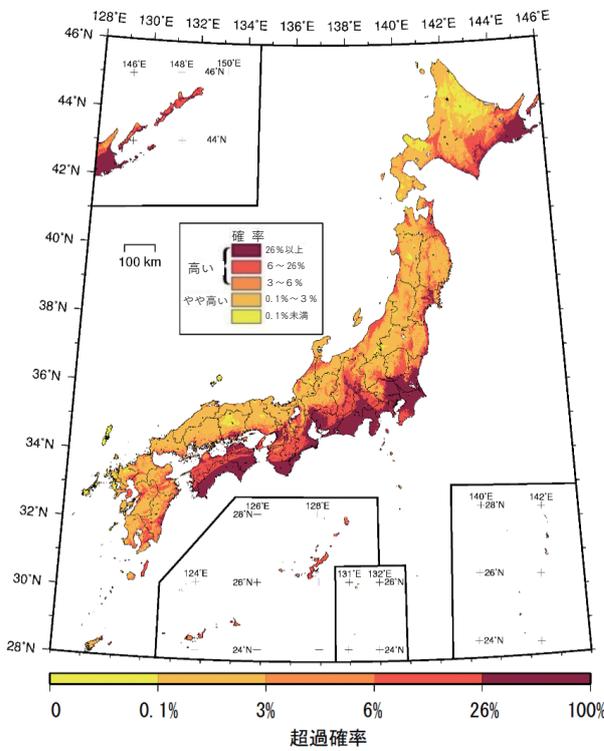
に備える。

東日本大震災・
長野県北部地震
から10年

2011年3月11日午後2時46分、マグニチュード(M)9.0の超巨大地震が日本海溝沿いで発生し、強い揺れと大津波が東北地方太平洋沿岸を襲いました。その翌日には長野県と新潟県との県境を震源とするM6.7の地震が発生、栄村を中心に大きな被害を及ぼしました。その震災から10年。大地震は台風や豪雨と異なり、一瞬で状況が変わってしまいます。改めて、日頃からできる防災対策について考えてみませんか。

今後30年間に「震度6強」の揺れに見舞われる確率

出典：全国地震動予測地図2018（政府地震調査研究推進本部）



00年以降に中野市で発生した震度4以上の地震（2月25日現在）

発生日	発生時刻	震央地名	中野市震度	備考
04年10月23日	17時56分	新潟県中越地方	震度4	新潟県中越地震（本震）
04年10月23日	18時34分	新潟県中越地方	震度4	新潟県中越地震（余震）
07年7月16日	10時13分	新潟県上中越沖	震度5強	新潟県中越沖地震
11年3月12日	3時59分	長野県北部	震度4	長野県北部地震（本震）
11年3月12日	4時31分	長野県北部	震度4	長野県北部地震（余震）
11年4月12日	7時26分	長野県北部	震度4	長野県北部地震（余震）
12年7月10日	12時48分	長野県北部	震度5弱	
14年11月22日	22時08分	長野県北部	震度5弱	長野県神城断層地震（本震）

気象庁震度データベースをもとに作成



栄村 総務課 情報防災係長 久保田 一樹さん

栄村では東日本大震災翌日の3月12日午前3時59分に最大震度6強の本震、震度6弱の余震に襲われました。当時、激しい縦揺れで目を覚ますと、家の中の家具は倒れ、ガラスは割れ、足の踏み場もないほど散乱していました。慌てて真っ暗な屋外に避難しました。車の中に避難した住民もいました。その後、消防団員を中心に村内の見回りをし、倒壊した家屋や土砂崩落、陥没による1対超の段差の発生などの被害状況が分かり、経験したことのない災害に恐怖や不安を感じました。



▲多くの家屋が損壊した栄村横倉地区

続く余震により家屋倒壊の恐れがあることから、一部地区を除く全村に10日間の避難指示を発令。不慣れた避難



▲避難所の役場内多目的ホールでは避難者を収容できず、ロビーまで人があふれた

所生活は、被害を受け使用できない避難所もあり、「密」状態がよく寝られない方も多かったと思います。ライフラインのうち、電気は当日に復旧しましたが、上下水道は被害を受け、近隣の市町村にも協力いただき、給水車、仮設トイレにより対応しました。トイレの清掃や水の補給など、どの避難所も村民の皆さんにより自主的に管理していただきました。食料や日用品は、当日から物資などが届き、ボランティアの方の炊き出しなど日を追うごとに充実されていきました。

幸い、この地震による重傷者はいませんでした。これは、たまたま屋根に雪が無く、火を使う時間帯でもなかったことが大きな要因だと思われれます。また、小さな村のため、どの家に誰がいるという情報を共有できていたことが避難や安否確認に役立ったと考えられます。

大地震は台風や豪雨と異なり突然状況が一変します。行政が行う防災対策には限界がありますので、日頃から、備蓄品の準備や自主避難など「自分の身は自分が守る」意識と、お互いに助け合う意識が重要です。



320 人が一斉に
救急車を呼んだら

市内で1日に出勤する救急車の平均回数は約5回(2019年)。大地震が起きると市内では320人の負傷者が想定されています。病院に行ってもすぐに治療してもらえとは限りません。自分の身は自分で守ることが大切です。

39%の世帯で
トイレ不能

34%の世帯で
断水

ふだん当たり前のように使用している水道。災害時は何よりも水は大切なものです。また、下水道が使えないとトイレが影響を受け、無理に流したら逆流の可能性があります。市は20,700回分の簡易トイレを備蓄していますが、自宅での避難生活のためにもトイレ対策を。



市内で最大

3,710 人が
避難者に
(内 避難所に1,860人)

家が壊れたり、火災などで自宅に住めなくなってしまう人のほか、余震不安や断水・停電などさまざまな事情による一時的な避難者が想定されています。いつでもすぐに避難できるよう備えておきましょう。

中野市の備蓄は
全市民の

5 %の **2** 食分

市は食料など人口5%分を目安に主食4,600食と副食2,300食分を備蓄しています。市民全員分はありません。まずは各家庭での備蓄が必要です。



大地震が起きたら
**中野市は
どうなるの？**

長野県の調査により、中野市に最大震度7、市全域で5強以上の地震が発生した場合の被害想定がまとめられています。中野市地域防災計画(平成29年)を基に作成
※必ずしも近い将来に想定どおりの地震が発生することを意味するものではありません。

そなえが
たいせつ



最低

3 日分の備えを

ほかの地域から送られてくる支援物資が届くまで3日かかると一般的に想定されています。それまでは、備蓄してあるもので乗り切る必要があります。3日以上を目安に備蓄しましょう。



中野市国土強靱化地域計画(案)を作成しました

市では、**国土強靱化基本法**に基づき、巨大地震や集中豪雨などの大規模自然災害への備えや、事前防災・減災と迅速な復旧復興に資する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「中野市国土強靱化地域計画(案)」を作成しました。また、3月11日(木)までこの計画(案)に対する意見を募集しています。

市公式 HP



強靱化の総合的な目標

しなやか中野・たくましいふるさとへ
命や暮らしを守るまちづくり

事前に備えるべき目標

いのちを守る

人命の保護が最大限図られること

円滑・迅速な支援

負傷者等に対し、迅速に救助、
救急活動が行われること

指令・情報システムの確保

必要不可欠な行政機能、
情報通信機能は確保すること

動線・流れの確保

必要最低限のライフラインを確保し、
早期復旧ができること

復旧・継続の支援

流通・経済活動等を停滞させないこと